

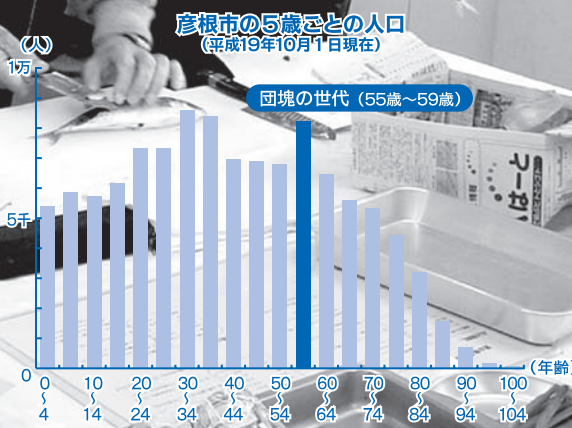
1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

これからの人生を楽しく過ごす

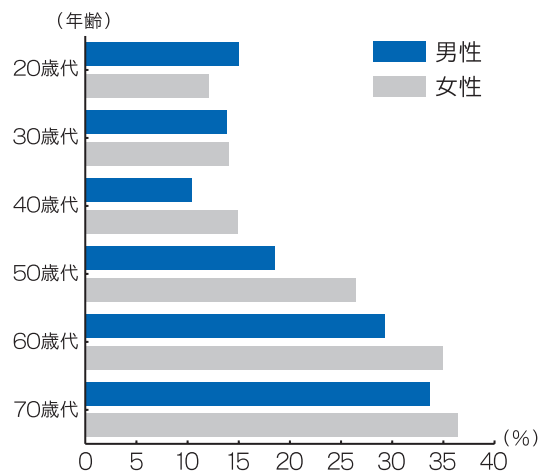
キーワードは、男女共同参画



▲平成19年に、男女共同参画センター「ウイズ」で行われた「男の料理教室」



グラフ1 働く目的を「生きがいを見つけるため」と回答した人の年齢別の割合



退職後の生活は、今までとは変わります
世代的に生きがいを感じる
 団塊の世代とは、戦後の第一次ベビーブーム(おおむね昭和22～24年)に生まれた人たちのことです。日本の人口構造で最も大きな割合を占めており、仕事一筋で生きてきた世代と言えます。

左のグラフ1は、厚生労働省が作成した平成19年版の国民生活白書において、働く目的を「生きがい」と答えた人の年齢別の割合です。多くの人が退職を迎える60歳ころでは、約30%の人が、仕事が生きがいであると感じています。このため、退職して仕事がなくなると、日常生活も大きく変化します。

退職後の生活は、今までとは変わります

世代的に生きがいを感じる

子どもとの別居率の増加で夫婦の時間が増えます
 家族の形も変わり、最近では、親世代と子ども世代の別居が進んでいます。平成19年版の国民生活白書によると、「親世代と既婚の子ども世代の同居率」の推移では、1980年(昭和55年)に52.5%だった同居率が、2005年(平成17年)には、23.3%と減少しています。今以上に、夫婦二人きりで過ごす人も多くなります。

一変する退職後の生活。毎日の生活を楽しくするために、参考になることを右下に示します。退職後に限らず、日々意識しましょう。

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

一方、最近では、ワーク・ライフ・バランスという考え方が提唱されています。これは、仕事だけの生活を見直し、家庭生活や地域での生活、趣味などの活動との調和をとることで、豊かな人生を得ることができるといいます。

現在は、男性も女性も、仕事と家事・育児の両方を大切にしたいという希望を持っています。しかし、現実には、男性の多くは仕事を優先し、

男女がともに楽しく過ごすための第一歩

『生活力』を身に付ける

今まで家事を妻にまかせ、仕事一筋に生きてきた男性のなかには、一人で食事の用意ができない人が多くいます。そんな夫のために、妻は外出のたびに、夫の食事などについて気遣いをするようになり、ストレスを感じることも少なくありません。

退職後の人生を、夫婦が仲良く過ごそうと思っても、これでは関係が壊れていきます。そうならないために、男性も女性も、自分のことは自分でするなど、生活力をつける必要があります。

大切な「コミュニケーション」

夫婦において、「妻は夫に従う」という考え方はもうまきまきません。お互いに対等なパートナーであることを再認識し、いい夫婦関係を築いていくために、「コミュニケーション」を大切にしましょう。

また、家族以外に、新たな仲間を作ったり、自分の居場所を作ったりするためにも、「コミュニケーション」はとても大切です。良好な対人関係を築き、維持していくために、性別に関わりなく、相手がだれであれ、対等な個人として尊重することが大切です。

団塊の世代の多くが定年退職する時期を迎えています。この世代は、夫が仕事、妻が専業主婦として家事や育児に専念するという性別役割分担が多かったのではないのでしょうか。

しかし、退職という人生の節目が、本人や家族にとって大きな転機となります。夫が家にいるようになるころには、子は育ち、妻はもう自分にあつた新しい生き方を見つけているかもしれません。

これからは、当たり前だった役割を見直し、男性も女性もだれもが、一人の個人として自分らしく生きていくことが大切です。

そこで、今回は、退職の時期を迎えている団塊世代の夫婦を例にとり、男女共同参画を考えてみたいと思います。問い合わせ先 市民交流課 22-1398番

女性の多くが家事・育児を優先、あるいは家事・育児に専念しています。この背景には、男性を中心とした長時間労働など、仕事中心の生活スタイルがあります。これが、男性の家事・育児や地域活動への参画を困難にしている原因の一つです。また、男性の仕事中心の生活が、女性が家庭内の責任を多く担うことにつながり、男女の性別役割分担意識が解消されることになりません。

しかし、今後、男女共同参画の推進を図るうえで、このような働き方について、社会全体が考え直す必要があります。家族と過ごす時間、趣味などで過ごす時間、地域で活動する時間、一人を楽しむ時間、どれも仕事と同じように大切です。

今まで身に付いた生活習慣を変えていくことは、簡単なことではありません。しかし、退職後も自立した生活ができるよう、この機会に自分のワーク・ライフ・バランスについて、考えてみましょう。